

中経 論壇

経営支援NPOクラブ監事
吉田 仁



んだのである。

このエピソードは、言葉の効果、特に人を説得するときの言葉の大切さと、言葉が有効に働く前提として、聞く側に信頼感がなければならぬことを伝えていると思う。この兵士たちは、ガリア戦役を指揮官としての深い信頼を寄せたからこそ、「市民諸君！」という言葉にショックを受ければ、甘えをわび、許しを請うたのである。

シユリアス・シーサーの子飼いの部下たちが、従軍拒否というストライキを起こした時、彼らに「市民諸君！」と呼びかけることにより、シーサーの下で戦い、彼に指揮官としての深い信頼を寄せた。いつもは「戦友諸君！」という呼びかけで、指揮官と兵士という深い絆で結ばれていると信じていた部下たちは、「市民諸君」という言葉でシユリアス・シーサーに見放されたと思えば、自分らの非をわび、部下のままでいさせてくれと頼

る政府の危機感がなかなか国民に伝わっていない。原稿を精読みして、リーダー自ら

言葉の力と信頼

の言葉で語っていない嫁など、庶民感覚としては全いからだろう。他国リーダーの国民への訴え方と比較してみるとき、日本のリーダーにも、言葉の持つ重みをもう少し感じてほしいものがある。2千年も前に、言葉によって事態を好転させたリーダーもいるのである。

また、政府の外出自粛のメッセージが国民に十分届かないのは、政治家に対する信頼感の欠如がベースにあると思う。国会での虚偽答弁や事実の隠蔽(いんぺい)、説明責任を果たさず言いながら本質に一切触れない会見、秘書への責任転嫁など、庶民感覚としては全いからだろう。他国リーダーの国民への訴え方と比較してみるとき、日本のリーダーにも、言葉の持つ重みをもう少し感じてほしいものがある。2千年も前に、言葉によって事態を好転させたリーダーもいるのである。

心に響かないリーダーの訴え

民主主義の発達レベルは、民度の高さに比例すると言われるが、信頼できない政治には、はつきり自分の意図を不責任をあらためて感じている。